

公益社団法人 日本天文学会理事会議事録

日 時：2018年5月19日（土） 13時00分～18時00分

場 所：京都大学東京オフィス・大会議室 A（千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビル10階）

出席理事：柴田（一）、林、土居、伊王野、山下、早野、柴田（克）、嶋作、徂徠、花輪、伊藤、春日（以上12名）

出席監事：田中（以上1名）

欠席理事：小宮山、寺田、大山、望月

欠席監事：立松

また、佐藤事務長、黒岩事務長補佐、田口谷事務長補佐が出席した。

I. 確認事項など

I-1. 議事に先立ち、出席者が12名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。

また定款に基づき、議長と署名人の確認がなされた。

議 長：柴田一成

署名人：柴田一成、林 左絵子、土居 守、田中培生

I-2. 前回議事録の確認

資料2に基づき、前回（2018年3月14日）の理事会議事録が報告され、確認された。

II. 報告

II-1. 日本天文学会2017年度監査報告（資料3、田中）

田中監事より、資料3の監査報告書にもとづき、事業報告書および財務諸表が適正に作成されていることが報告された。

III. 議題

III-1. 日本天文学会2017年度事業報告書の承認（資料4、伊王野）

資料4にもとづき事業報告があった。ほぼ例年通りの活動であった。インターネット天文学辞典についての記述をWG活動として委員会報告に記載すること、全国七夕講演会の開催を委員会報告に移すこと、また、後援事業等について承認日に加えて実施予定日も記載する等の修正をしたのち、全会一致で承認された。

III-2. 日本天文学会2017年度決算書の承認（資料5、早野）

資料5-1～22にもとづき決算の報告があった。貸借対照表等の概略の説明があった。理解が難しいので、わかりやすくまとめた資料も入れることを検討することとした。その後、全会一致で承認された。

III-3. 新規加入者の承認（資料6、山下）

2018年3月8日～2018年5月16日までに正会員入会申請22名、準会員入会申請16名、準→正の移籍申請1名の申請があり、全会一致で承認された。

- III-4. 「天文教育普及賞・推薦のお願い」について（資料7、土居）
天文月報や TENNET に掲載する「天文教育普及賞・推薦のお願い」の文案について議論を行った。
- III-5. 旅費規程の改定について（資料8、早野）
近年のインバウンドツーリストの急増により、大都市を中心にして宿泊費が上昇していることから、旅費規程の宿泊費の改定が提案され、全会一致で承認された。
- III-6. 2020 年春季・秋季年会開催地の承認について（資料9、伊王野）
2020 年春季の年会開催地として、筑波大学筑波キャンパス、2020 年秋季の年会開催地として弘前大学文京町地区キャンパスが提案され、会場使用料等も妥当な額であることから、全会一致で承認された。
- III-7. 事務所ネットワーク接続について（資料10、伊王野）
現在、日本天文学会事務所のネットワークは国立天文台のサブネットを利用しているが、自然科学研究機構のセキュリティ規定が厳格となることから、ファイルをアップロードするページを改変もしくは閉鎖するか、独自のネットワークに接続する必要性が生じている。費用や担当者の負担等についての議論の後、全会一致でセキュリティサービス付きの独自のネットワークサービスを導入することが承認された。
- III-8. 予稿集について（資料13-2、寺田年会実行委員長／代理伊王野）
これまで年会予稿集の印刷を発注していた啓文堂松本印刷が廃業となり、その継続となる印刷所を選定する必要がある。4社から見積もりを取ったうちイーフォー株式会社を利用することを承認した。
- III-9. 日本天文遺産選考委員会からの報告・お願い（資料20、半田／代理土居）
表彰の際に贈る盾とパネルのデザインを専門家に依頼すること、天文月報や TENNET に掲載する推薦依頼文や推薦書のフォーマットなどについて議論した。
- III-10. 名誉会員について（資料21、柴田一成）
長らく新たに選ばれてこなかった名誉会員として、特に功労のあった2名の会員およびかつての会員を代議員総会に提案することが提案された。まず、名誉会員の対象とする基準を明確にすべきとの意見が出され、「功労」として学問的な功績を重視する観点、「名誉」は大きな功績に加えて現役を退いている点の必要性についてなどの議論があった。これらの基準をはっきりさせて明文化してから名誉会員の候補を提案すべきとの意見と、十分に資格のある会員（かつての会員）については本理事会で提案すべきであるとの意見があり、採決を取った結果、賛成多数で提案のあった候補者2名を代議員総会に名誉会員として提案することとなった。提案文については、代議員総会までにメールによって合意を得ることとした。
- III-11. 「IAU 100 周年シンポジウム」について（資料23、土居）
IAU 100 周年シンポジウムを日本学術会議シンポジウムとして、2019 年5月ころの2日間にわたって開催予定であることが紹介された。開催案が示され、日本天文学会が共催することが全会一致で承認された。
- III-12. 欧文研究報告編集委員会委員の交代について
欧文研究報告編集委員会委員である久野氏が多忙を理由に退任を希望していることから、後

任として中西 裕之氏（鹿児島大学）が提案され、全会一致で承認された。

IV. 報告

IV-1. 移籍・退会等の報告（資料6、山下）

2018年3月8日～2018年5月16日までに正会員入会申請22名、準会員入会申請16名、準→正の移籍申請1名、正→準の移籍9名、正会員退会者129名、準会員退会58名、賛助会員退会1団体の報告があった。

IV-2. 衛星設計コンテスト2017の報告（資料11、柴田一成）

衛星設計コンテストが開催され、徳山工業高等専門学校が日本天文学会賞を受賞したことが報告された。

IV-3. 2018年版名簿について（資料12、伊王野）

2018年度版会員名簿の主な関係機関に掲載する機関について、過去の基準であった「原則として4名以上の会員が所属する機関」に関わらず、広く関係機関を掲載することとした。議論では、2名以上の教員の所属する機関を掲載候補としてリストアップした。

IV-4. 年会実行委員会からの報告（資料13-1、代理伊王野）

秋季年会の企画セッションは2件を採択し、特別セッションは一般公募せず「天文教育フォーラム」と「安全保障と天文学」を開催する予定である。年会アンケートを4月末に締め切り、206件の回答を得た。年会実行委員会でアンケートの解析と年会改革の議論ポイントの抽出を行い、秋季年会の会員全体集会で報告する予定である。

IV-5. 会員アンケートの集計結果（資料14、寺田年会実行委員長／代理伊王野）

年会アンケートの集計結果について報告があった。代議員総会には個々のコメントも含めた資料を配布するが、天文月報記事やHP上には統計的な数値とコメントのまとめなどを掲載する。

IV-6. インターネット版天文学辞典WGの報告（資料15、縣／代理土居）

これまでの経緯と今後の維持方針について報告があった。β版公開以降、コンタクト窓口 contact-jiten@asj.or.jp や TENNET、SNS 等に寄せられた意見は、出来る限り随時、修正・反映できるように努力している。天文学会 HP のトピックスに正規版公開の記事を載せることとした。

IV-7. 全国同時七夕講演会実施委員会の報告（資料16、山岡／代理伊王野）

全国同時七夕講演会の登録が開始されたことが報告された。天文教育普及研究会が共催となる予定である。

IV-8. 天文教育委員会の報告（資料17、大山／代理伊王野）

年会の教育フォーラムの内容は市民天文学を検討中である。講師紹介プログラムは本年度6件依頼があり、4件が成立、2件が調整中である。インターネット版天文学辞典の制作時には教育委員会も関わってきたが、公開後は有志がWGに加わる。

IV-9. 「月報」活動報告（資料18、小宮山／代理伊王野）

EUREKA 記事に加えて、新連載「データ科学と天文学」を開始した。

IV-10. PASJ 報告（資料19、嶋作）

最近何件かの編集上のミスがあった。直接的原因は特集号の集中による論文数の増加が原因と考えられるが、そもそも人員体制が不足していることからアシスタントをつける必要性が述べられた。

IV-11. 「安全保障と天文学」特別セッションについて（資料22、伊王野）

秋の年会での特別セッション「安全保障と天文学」の講演者・プログラム案が提示された。今期理事会として1つの声明としてまとめることを目指している。全体の意見分布をうまく落とし込んで声明にまとめる工夫をしたい。また、Nature 誌に、誤った記事が掲載されたことについて、日本天文学会からの抗議とその後のやりとりについて報告があった。謝罪文が掲載される予定である。

IV-12. 事業の近況報告（伊王野、早野）

実務理事会を定期的に開催して事業を推進している。会費収入のシミュレーションのため会員の年齢分布の調査を行い、シニアの方の会費の貢献が予想よりも大幅に大きいことが判明した。

IV-13. 今後の年会進捗状況報告（伊藤、春日）

1. 兵庫県立大（伊藤）：会場の利用料は減免によりゼロ円となった。この夏に eduroam が導入される予定であるが、年会会場の教室で使えるようになるかは不明。懇親会は灘菊酒造で開催。講演会への参加呼びかけに姫路市科学館や星の子館に協力をお願いするために、（日本天文学会から）姫路市と姫路市教育委員会に後援を依頼する。記者会見は姫路市か神戸市のどちらで開催するか未定。年会のホームページは西はりま天文台のサーバーに準備済み。
2. 法政大（春日）：大きな会場（それぞれ約 160 席）を確保するために、土日を含む 3/14(木)–17(日)に開催する。物理学会とはバッティングする。

IV-14. 事務所近況報告（佐藤良）

2つの公開講演会を一つにまとめた科研費が採択された。学会職員の永年勤続表彰（20年間：2名、10年間1名）を事務所内で行った。

[資料リスト]

資料1 理事会出欠表

資料2 公益社団法人日本天文学会理事会（3月14日）議事録（案）

資料3 監査報告書

資料4 公益社団法人日本天文学会 2017年度事業報告書

資料5-1~23 公益社団法人日本天文学会 2017年度各種会計資料

資料6 新規加入者・加入予定者の承認。移籍の承認・報告、退会の報告

資料7 2018年度（第1回）天文教育普及賞候補者推薦のお願い（案）

資料8 日本天文学会 旅費規程改正案について

資料9 2020年春季・秋季年会の候補地について

資料10 学会事務所のネットワーク接続について

資料11 衛星設計コンテスト

資料12 会員名簿（「主な関係機関」）について

- 資料 13-1 年会実行委員会・報告事項
- 資料 13-2 年会実行委員会・審議事項
- 資料 14 年会アンケート集計結果
- 資料 15 インターネット版 日本天文学会「天文学辞典」の状況報告
- 資料 16 全国同時七夕講演会実施委員会の報告
- 資料 17 天文教育委員会の報告
- 資料 18 天文月報編集委員会の活動報告
- 資料 19 PASJ 編集委員会からの報告と議題
- 資料 20-1 日本天文遺産の推薦募集及び顕彰用の盾等の検討について
- 資料 20-2 2018 年度（第 1 回）日本天文遺産候補推薦のお願い
- 資料 20-3 日本天文学会日本天文遺産候補推薦書（案 Ver. 1.1）
- 資料 21 名誉会員について
- 資料 22 「安全保障と天文学」特別セッションについて
- 資料 23 IAU100 年記念事業日本学術会議シンポジウム（案）

2018 年 5 月 19 日

会 長：柴田 一成 印

副会長：林 左絵子 印

副会長：土居 守 印

監 事：田中 培生 印